

第6次吉岡町総合計画策定のための 基礎調査結果報告書【概要版】

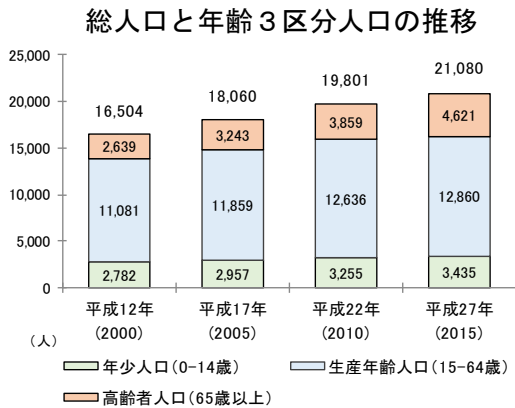
1. 人口等の状況

(1) 総人口と人口構成の状況

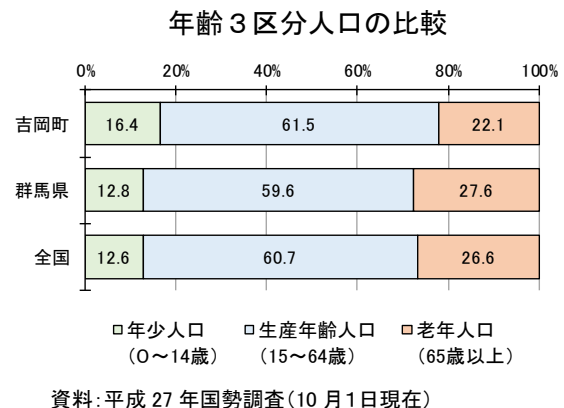
■ 総人口は、増加傾向で推移し、平成27年(2015年)で21,080人となっています。
■ 年少人口は、16.4%と県内で最も高く、老年人口は22.1%で国、県を下回ります。
■ 人口増加率は6.46%で県内市町村の中で最も高くなっています。

● 総人口は、平成12年(2000年)の16,504人から平成27年(2015年)には21,080人と、15年間で約1.3倍に増加し、同様に年少人口(0~14歳)は約1.2倍、老年人口(65歳以上)も約1.8倍に増加しています。

● 平成27年(2015年)国勢調査の年齢3区分別人口比率を国、県と比較すると、年少人口は16.4%と国、県を上回り、県内で最も高い比率となっています。また、老年人口は22.1%と国、県を下回ります。

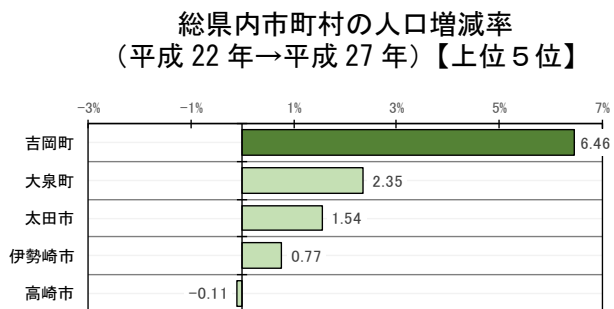


資料: 国勢調査(各年10月1日現在)



● 人口増減率を県内市町村と比較すると、吉岡町は6.46%と最も高い増加率となっています。

資料: 平成22年・平成27年国勢調査(各年10月1日現在)

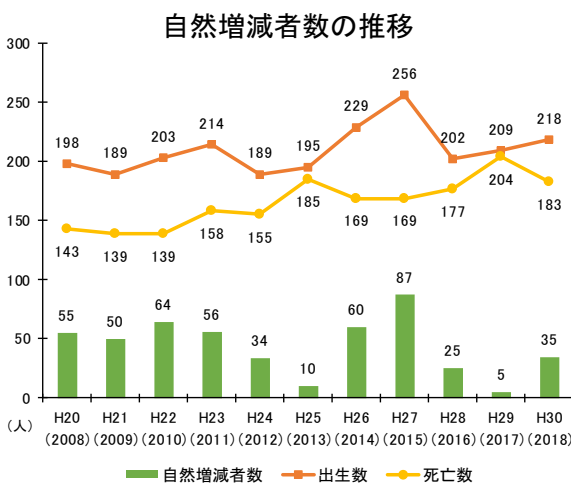


(2) 自然増減・社会増減の状況

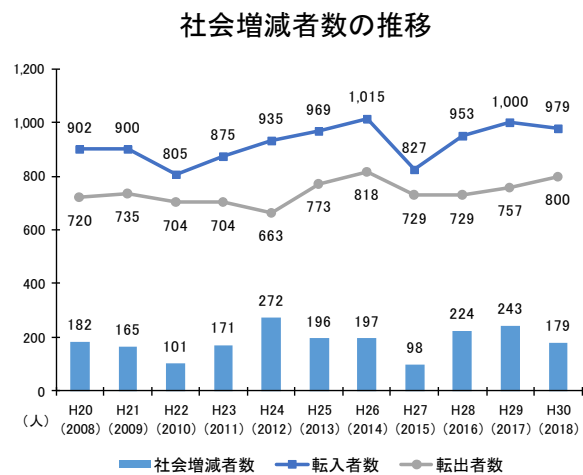
- 直近の10年間では、出生数が死亡数を上回る自然増、転入者数が転出者数を上回る社会増の傾向で推移しています。
- 人口増減者数は、おおむね年間200人台の増加で推移しています。

- 出生数は、大きく出生数が増加した平成27年(2015年)を除き、おおむね年間200人前後で推移しています。
- 死亡数は、人口増、高齢化に伴い、おおむね増加傾向にあり、平成20年(2008年)の年間143人から、平成30年(2018年)には年間183人となっています。

- 転入者数はおおむね増加傾向で推移し、平成26年(2014年)には年間千人を超えましたが、平成27年(2015年)に減少し、その後、再び増加しています。
- 転出者数は、おおむね年間700人から800人で推移しています。

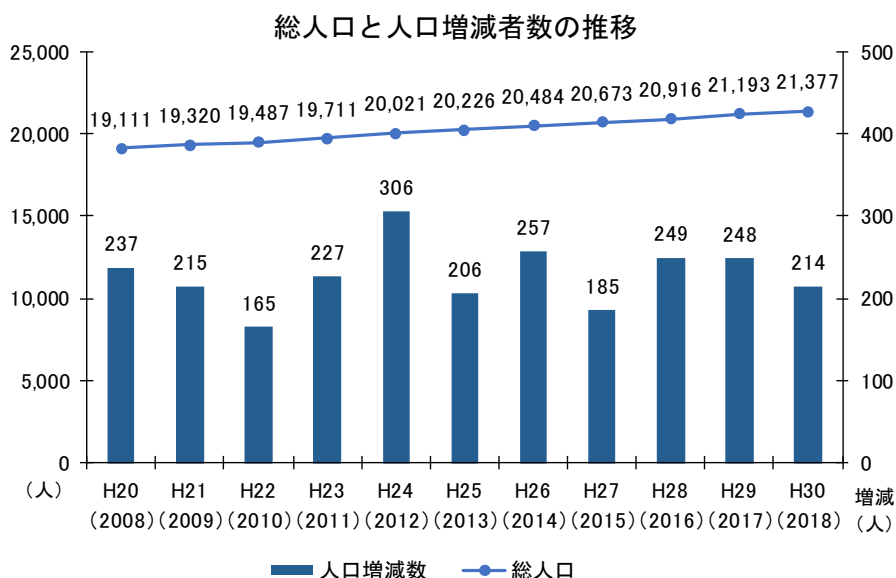


資料:群馬県移動人口調査(10月~9月)



資料:群馬県移動人口調査(10月~9月)

- 人口増減者数(=自然増減者数-社会増減者数)をみると、平成20年(2008年)以降、おおむね毎年200人台の増加で推移しています。

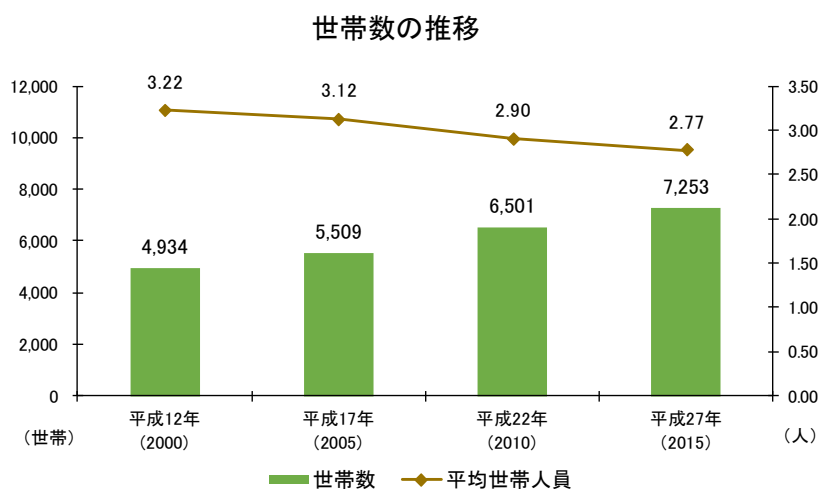


資料:群馬県移動人口調査(10月~9月)
住民基本台帳(各年10月1日)

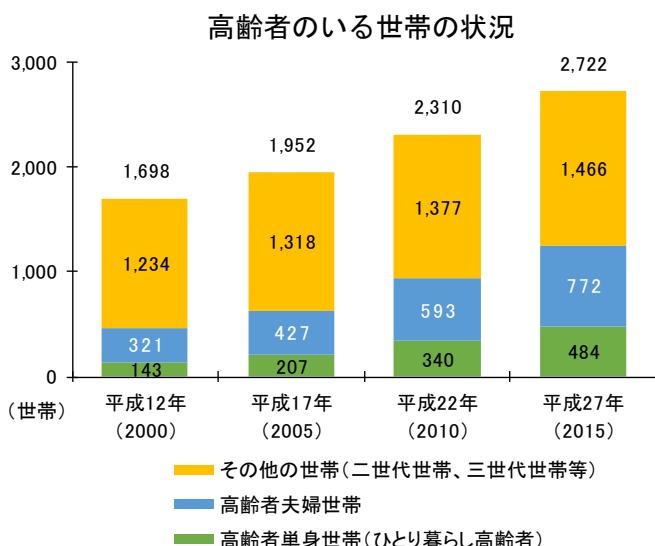
(3) 世帯の状況

- 世帯数は、増加傾向で推移し、平成 27 年（2015 年）で 7,253 世帯となっています。
- 平均世帯人員は、減少傾向で推移し、平成 27 年（2015 年）で 1 世帯あたり 2.77 人となっています。
- 高齢者単身世帯（ひとり暮らし高齢者）は 15 年間で約 3.4 倍、高齢者夫婦世帯も 15 年間で約 2.4 倍の増加となっています。

- 総世帯数は、平成 12 年（2000 年）の 4,934 世帯から平成 27 年（2015 年）の 7,253 世帯へと増加しています。
- 平均世帯人員は、平成 12 年（2000 年）の 1 世帯あたり 3.22 人から平成 27 年（2015 年）の 1 世帯あたり 2.77 人に減少しています。



資料: 国勢調査(各年 10 月 1 日現在)



資料: 国勢調査(各年 10 月 1 日現在)

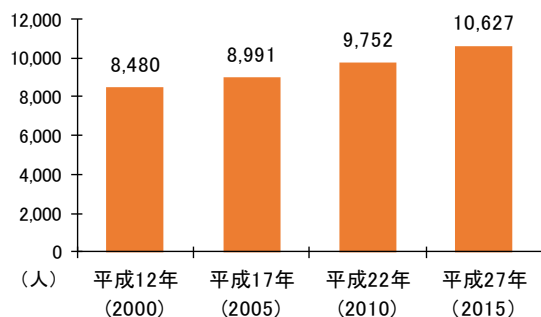
- 高齢者のいる世帯の状況を家族類型別で見ると、高齢者単身世帯（ひとり暮らし高齢者）は平成 12 年（2000 年）の 143 世帯から平成 27 年（2015 年）の 484 世帯へと増加傾向で推移しており、15 年間で約 3.4 倍となっています。
- 高齢者夫婦世帯も平成 12 年（2000 年）の 321 世帯から平成 27 年（2015 年）の 772 世帯へと増加傾向で推移しており、15 年間で約 2.4 倍となっています。

(4) 就業者の状況

- 就業者数は、増加傾向で推移し、平成 27 年（2015 年）で 10,627 人となっています
- 第 1 次産業、第 2 次産業は減少する一方、第 3 次産業は増加しています。
- 産業別の就労者は、男性では「製造業」、「卸売業、小売業」、「建設業」、女性では「医療、福祉」、「卸売業、小売業」、「製造業」が上位となっています。

● 就業者数の推移をみると、平成 12 年（2000 年）の 8,480 人から平成 27 年（2015 年）の 10,627 人へと増加傾向で推移しています。

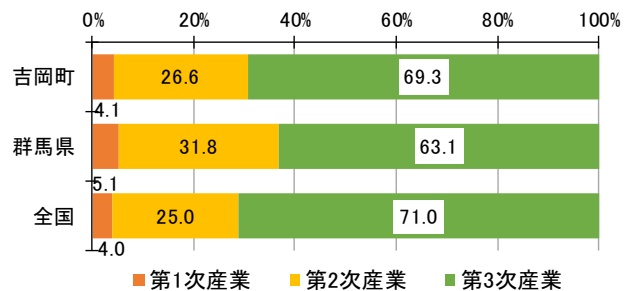
就業者の推移



資料: 国勢調査 (各年 10 月 1 日現在)

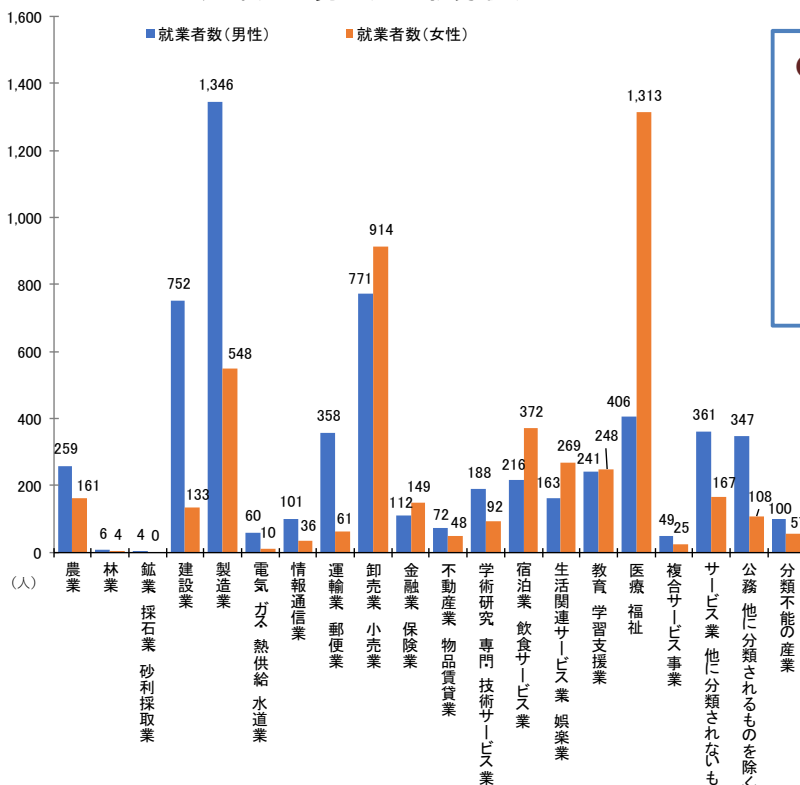
● 産業 3 区分別就業者の構成比をみると、平成 27 年（2015 年）には第 1 次産業が 4.1%、第 2 次産業が 26.6%、第 3 次産業が 69.3%となっており、平成 12 年（2000 年）以降、第 1 次産業、第 2 次産業は減少傾向にあります。第 3 次産業の就業人口構成比は増加しています。

産業別就業者の構成比の推移



資料: 国勢調査 (各年 10 月 1 日現在)

産業別・男女別の就労状況

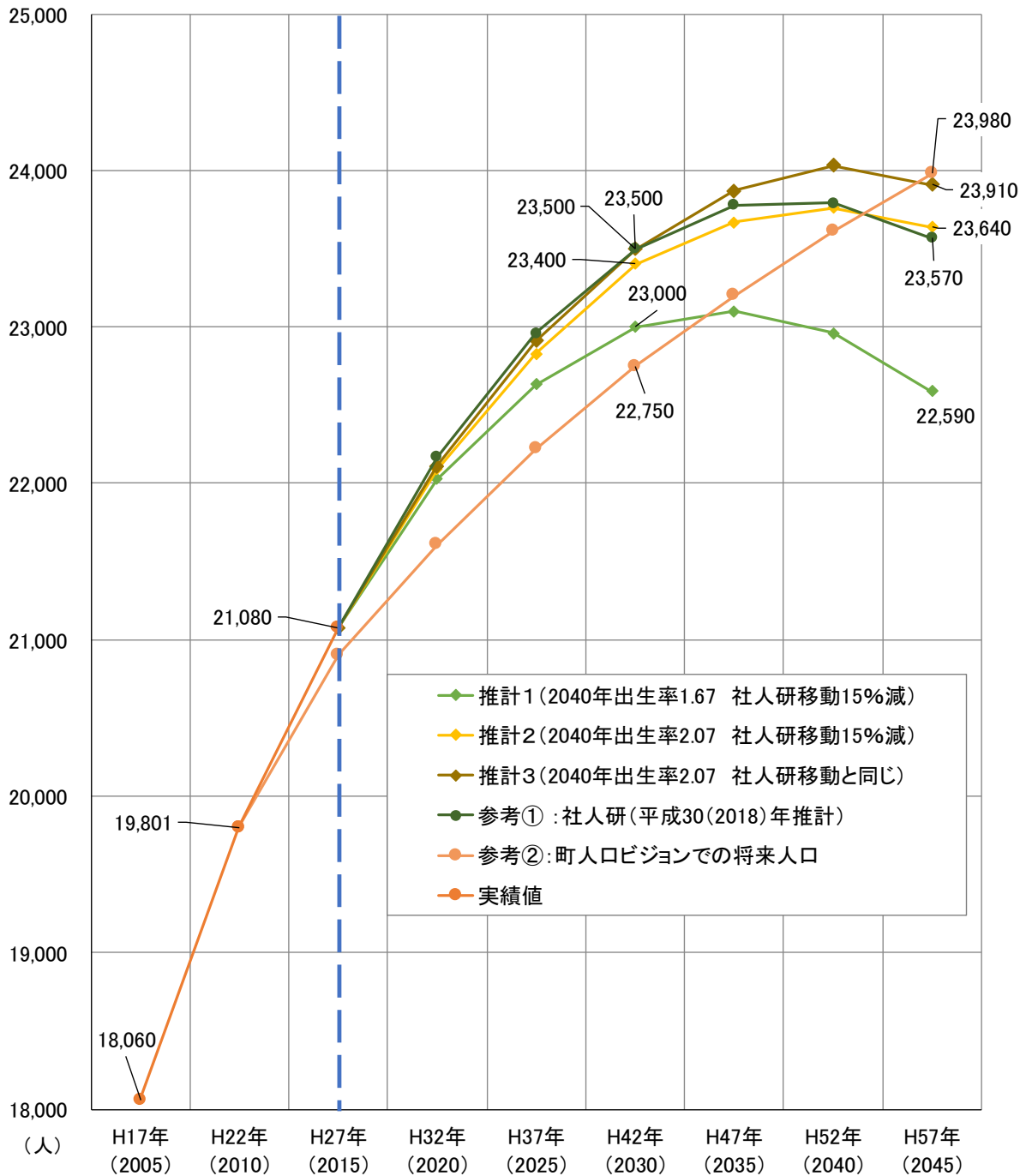


資料: 平成 27 年国勢調査 (10 月 1 日現在)

● 産業別の就労者をみると、男性は「製造業」、「卸売業、小売業」、「建設業」の従事者が多く、女性は「医療、福祉」、「卸売業、小売業」、「製造業」の従事者が多くなっています。

2. 将来人口推計

■人口ビジョン策定時の将来推計方法を基本に、平成 27 年（2015 年）の国勢調査人口を基準に 2045 年まで推計した結果、将来人口の増加が最も多い推計では 2045 年の総人口は 23,910 人、増加が最も少ない推計では 22,590 人と見込まれます。



※実績値は国勢調査、推計人口は 10 人単位。

3. まちづくりの課題とまちの強み

(1) 対応すべき課題

魅力ある町をつかっていくためには、快適な住環境・基盤づくりをはじめ、福祉環境の充実、教育環境の整備、活力ある産業の育成など様々な分野における取り組みを一体的に進め、総合的な住み心地の向上を一層図る必要があります。

こうしたことを踏まえ、次期総合計画において、新たなまちづくりを進める上で対応すべき主な課題をまとめると、次のとおりとなります。

①適正な土地利用の推進	市街地が無秩序に拡大すると、道路や上水道などの社会資本整備費が増大し、将来的には維持管理費も増大することが懸念されるため、まとまりのある土地利用への転換が求められます。
②公共交通の利便性向上	周辺都市への通勤・通学の足として鉄道は重要であり、最寄りの鉄道駅へのバスサービスの充実とともに、公共交通空白地域・不便地域の解消を図るため、住民のスムーズな町内移動を支える多様な公共交通体系の実現を目指す必要があります。
③道路の整備	集落内には狭い生活道路が多く、歩道整備が十分ではない箇所もあります。また、南北を結ぶ広域的幹線道路では整備が進んでいますが、東西を結ぶ路線では未整備区間が多い現状がみられることから、今後も計画的な整備が求められています。
④空家対策の推進	町内の空き家数は増加傾向となっており、まちの魅力がなくなるだけでなく、地域コミュニティや防災上の面などで問題視されており、その対策が求められています。
⑤駒寄スマートIC周辺への工業系企業の誘致	本町においては、大型車対応化が予定されている駒寄スマートICの周辺が工業系企業の誘致先として最も潜在能力が高くなっています。今後、産業活性化に向け、駒寄スマートIC周辺への企業誘致を図る必要があります。
⑥商業地の計画的な誘導と観光商業の振興	駒寄スマートIC東側の周辺には、新たな商業地が形成されつつあり、集客性も高いと考えられるため、既存店舗と一体となったまとまりのある商業地の形成を図る必要があります。 また、観光交流の拠点である道の駅よしおか温泉や物産館において、町内の農産物や特産品など地域資源を生かした観光商業をより一層振興していく必要があります。
⑦農業の活性化と農地の保全	農業就業人口の高齢化と減少に伴い、耕作放棄地の増加や農業後継者不足が深刻化していることから、担い手の確保とともに、農地集積・集約化と耕作放棄地の発生防止、解消を進める必要があります。

<p>⑧地域共生社会の実現</p>	<p>近年は、社会構造の変化などにより、高齢者、障害者、児童といった個別の福祉サービスだけでは解決できない困りごとや悩みごとを抱える、いわゆる「制度の狭間」にいる人に対する支援のあり方が課題となっています。</p> <p>これらの課題には、「個人や家族で解決する」（自助）、「地域の人たちが協力して解決する」（互助）、「相互扶助による制度で解決する」（共助）、「行政サービスによって解決する」（公助）、さらに、これらの組み合わせによって解決していくことが求められています。</p>
<p>⑨子育て支援の充実</p>	<p>子育て世帯の転入者が多いことから、不安や悩みを一人で抱えてしまう人もみられ、育児相談や育児に関する情報提供を充実するとともに発達支援事業の強化など、子育て世帯が安心して育児に取り組める支援を充実していく必要があります。また、年々増加する学童クラブへのニーズに対応するため、施設の増設、児童館の充実など環境整備を進める必要があります。</p>
<p>⑩将来の社会の変化を見据えた教育</p>	<p>将来のまちづくりを担う子どもたち一人ひとりが輝き、健やかに成長できるよう、学校・家庭・地域社会の連携・協力のもと、様々な体験活動を進めるとともに、基礎的・基本的な知識や技能を習得し、それを活用して自ら課題を解決する力を育む学校教育の充実を図る必要があります。</p>
<p>⑪計画的な行政運営</p>	<p>今後、児童数の増加に伴う学校施設の増改築とともに、都市基盤整備など多額の経費が見込まれる上、高齢化の進展による社会保障費等の増大が想定されています。</p> <p>こうした中、戦略的な財源配分に努めるとともに、事業の緊急性、投資効果などを考慮し、中長期的な財政見通しのもと、計画的な財政運営に努める必要があります。また、自主財源の確保に向け、地域産業の振興や企業誘致など歳入の確保に努める必要があります。</p>
<p>⑫公共施設等の効果的・効率的な管理運営</p>	<p>公共建築物については、現状の施設をそのまま保有することを前提とした場合、いずれ施設の老朽化に伴う集中的な大規模修繕・更新期の到来が懸念されます。</p> <p>人口動態や住民ニーズなど十分に検証した上で、効率的な維持管理や保有量の最適化等を図る必要があります。</p>

(2) まちづくりに生かすべきまちの強み

本町は、恵まれた立地条件や広域的なアクセスのよさなど、様々な特性を持つ発展可能性の高い町です。町の魅力をさらに高める視点に立ち、新たなまちづくりで生かすべき代表的な特性等を整理すると、次のとおりとなります。

特性 1 恵まれた立地条件を有するまち	本町は、県の中心に位置し、県内2大都市である前橋市、高崎市の中心部から10km、15km圏内にあるため、両市への通勤、通学の利便性が非常に高いまちです。
特性 2 広域的なアクセスがよいまち	本町は、国道17号、高崎渋川線バイパス、前橋伊香保線（吉岡バイパス）、南新井前橋線バイパスなど広域的幹線道路のネットワークが形成されているとともに、今後、大型車対応が予定される駒寄スマートICが設置されていることから、広域的なアクセスがよいまちです。
特性 3 商業施設などの買い物の場が充実した、日常生活の利便性の高いまち	本町は、前橋伊香保線（吉岡バイパス）沿道に商業集積が進むとともに、スマートIC東側にも商業施設の集積が進みつつあり、買い物の場が充実した日常生活の利便性の高いまちです。
特性 4 県下で人口増加率が最も高く、着実に人口増加を続ける若いまち	本町は、人口増加率が県下で最も高く、0～14歳の年少人口比率も平成27年で16.4%と県下で最も高い、着実に人口増加を続ける若いまちです。
特性 5 身近な自然にふれることのできるまち	本町は、榛名山麓に自然豊かな森が広がっており、利根川の水辺空間、田園風景の中に里山や河畔林が点在するなど、身近な自然にふれることのできるまちです。
特性 6 特色ある観光・交流資源のあるまち	本町は、道の駅よしおか温泉をはじめ、吉岡自然エネルギーパーク、日本で最も確実な八角墳とされる三津屋古墳や南下古墳群、伊香保街道の野田宿本陣や大久保宿養蚕農家群など特色ある観光・交流資源のあるまちです。

第6次吉岡町総合計画策定のための基礎調査結果報告書【概要版】

発行：吉岡町

発行年月：平成31年3月

編集：吉岡町総務政策課政策室

〒370-3692 群馬県北群馬郡吉岡町大字下野田560番地

電話：0279-54-3111 FAX：0279-54-8681